

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275000097		
法人名	有限会社 たすけあい		
事業所名	グループホーム たすけあい		
所在地	千葉県香取市岩部1095-1		
自己評価作成日	平成 23年 11月 10日	評価結果市町村受理日	平成23年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成23年11月23日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの敷地に畑を作っており季節ごとに採れる野菜を使ったメニューを考えて利用者様には食べて頂いております。家族からも安心して頂いているとお声も頂き面会に来た際にはお土産として持ち帰って頂いたり嬉ばれております。近隣の交流を持っている事業所やボランティアで来ていただいた際にもおすそ分けしたり喜んで頂いております。季節によって利用者様と一緒に保存食作りを行い昔を思い出しながら取り組んで頂く姿もみられ職員も今まで見た事がない様子も伺えその方をより知ることが出来る機会にもなっております。積極的に事業所間での交流会や勉強会への参加や地域の行事への参加を通して顔なじみや交流に繋げて行っております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは家庭的で、すこぶる和やかな雰囲気にも包まれている。代表者や管理者・職員のにこやかな対応は、利用者のみならず家族や訪問者の気持ちに、いつもゆったりとした安心感を与えている。「笑顔のある」という理念が確実に実践されていると感じられる。利用者アンケートには職員に対する感謝と賞賛の声が高く、自分の実家に帰るような感じで行きやすいという評価も寄せられている。利用者本位のケアを心掛け、地域との交流や馴染みの継続支援がなされている。また自己を向上させようという職員心得が実行されており、地域の研修や勉強会への参加奨励が職員のモチベーションを上げ、定着率を高めている点を高く評価する。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を掲示し意識付けし定期的に勉強会を通し実践に繋げている。	理念の理解と意識付けを、カンファレンス時の研修等で行っている。ケアにあたっては常に理念を頭において支援するよう指導している。理念に掲げられている利用者の「笑顔」が職員に対する評価であると考え、理念の実践に繋げている。	管理者は家族にも理念の理解と周知が必要と感じている。契約時に重要事項説明書での説明や、運営推進会議で理念をアピールしているが周知にはまだ課題を残していると考えている。継続した取り組みを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者の自宅もあり定期的にボランティアや利用者様との散歩での交流や地域の会議や勉強会を通して交流を図っている。	散歩の機会を捉え、近隣の高齢者と交流が密になるよう配慮している。地域の他事業所との交流や、芋祭りなど地域の行事参加、ボランティアの訪問で利用者が地域と繋がりが続けられるよう支援している。日頃の多彩で意欲的な交流支援への取り組みを評価する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの季刊誌を配布したり作った野菜を配ったり、ボランティアの受け入れや地域行事への参加を通して取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議の参加を多くしてもらうことでより家族との繋がりを密にしていける事や評価表を配布し意見を求めその結果を話し合いサービスに繋げている。	運営推進会議では、事業所としてのアンケートを実施し評価表を提示している。職員の対応、環境等の意見を求める事で、サービスの向上に向け内容を充実させている。	今年度は4回の開催であった。年6回の開催を目差し、年間の開催計画をたて毎回のテーマを決めることで開催回数を確保し、サービスの向上に繋げて頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な会議への参加を積極的に行い日頃の相談などでも連絡を取ることで連携を図っている。	地域の連絡会には、香取市福祉課職員の出席があり、法的な相談などこまめな連携が図られている。市の依頼による韓国からの視察団受け入れでも協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会での意識付けや研修への参加を通し拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしないという強い意志と信念を貫いている。言葉遣いも常に意識し、拘束に繋がらない取り組みをしている。管理者は身体拘束排除の為の研修を、積極的に職員に受講させ拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会での意識付けや研修への参加会議での話し合いを通し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会や研修への参加を通し必要時には話し合いの機会を持つことで取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にはもちろんその都度必要なことは早めに報告、説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議の参加の中や日々の面会時にもなるべく家族との交流を多く持つ様にし信頼関係を作っていく様取り組んでいる。	運営推進会議と定期的な家族面会で利用者や家族の意見をくみ上げ運営に反映させている。土日など家族の訪問が多い日には、管理者がなるべく同じ顔で対応できるように配慮し、信頼関係を築けるようにと努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや日々のケアの中の会話から意見を求めることでケアに繋がっている。	会議では意見が出にくいという気付きがある。管理者は意見を言いやすい雰囲気作りに配慮し、普段のシフトの中や休憩中に話を引き出し、意見や提案を求めてケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に給料体制の見直しや自己評価表、個々の研修参加状況を評価し実践に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを	毎月の内部研修や個々に外部研修への参加を促しスキルアップを図る様にし評価をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な地域会議の参加や交流会、勉強会通し、情報交換を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	良く話を聞くことや体験を通し安心してもらえる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	良く話を聞くことで情報収集をし密にやり取りをすることで家族の不安、要望に応えていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いを繰り返し行い耳を傾けていくことで今必要としている事を見極めて聞けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々それぞれの立場に立って生活できる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時での交流や状況報告や相談を通しご本人を支えていける環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な受診や外出、地域行事への参加を通し支援に努めている。	地域の病院や医院が利用者の馴染みの場となっており、受診の際の外出を支援している。訪問しやすい環境作りをして、友人やボランティアの訪問による馴染みの関係が継続できるように、職員の細やかな配慮が感じられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に寄り添う姿勢を持つことで利用者様との関係を保つことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の経過をやり取りしながら必要に応じ相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	良く話を聞くことや傍に寄り添うことで思いや希望を汲み取るよう努めている。	職員の配置に余裕が出たことで、利用者の話をよく聞く機会が増やせている。傍に寄り添うことで話が出来なくとも気持ちを汲み取り、サービスに反映させている。利用者本位の立場で苦情なども長く持ち越さないようにしており、笑顔が返ってくるケアを心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集やご本人の話を聞くことで安心できる環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースに合わせながら一人一人の出来る事を把握しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状況や家族との話し合いや情報の中でチームでの話し合いを通し介護計画に繋げている。	介護支援専門員は利用者や家族の言葉で希望を聴き取り、職員間で話し合いを持って介護計画を作成している。情報は申し送りノートの回覧で共有されている。シフトの中で少人数によるモニタリングを行い、介護計画の見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやカンファレンスでの話し合いを通し情報の共有化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事やボランティアを通し支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な通院を行い担当医との関係を築きながら支援している。	近くの提携医で月一回の受診をしており、必要に応じて往診も受けていて、利用者とは顔馴染みなので安心して受診出来ている。歯科医では定期的に義歯の調整・口腔ケアを受けている。また受診結果表にて情報の共有も図れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護職員の配置にて情報の共有や相談の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に家族との連絡を取ることや面会にて状況を把握することで関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃の状況報告を家族とも密にし話し合いをしながら終末期に向けた支援をしている。	契約書に加えて「重症化した場合」の文書を作成し、重症化した場合・終末期について施設の考えを伝えている。利用者・家族の意思を確認して希望があれば看取りに関する同意書を交わし、終末期に向けた支援体制をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会でも周知し緊急マニュアルの掲示をすることに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施し職員の意識付けも行いながら体制を築いている。	消防署指導による避難訓練を年2回実施。日頃から地元住民との交流を密にとっているため非常時の協力体制は整っている。3・11地震の体験を活かして懐中電灯・電池等も新たに購入している。食料・水の備蓄も揃えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々それぞれにあった言葉かけやプライバシーに配慮に努めている。	利用者夫々に合った声掛け・言葉遣いを心掛けています。大きな声は本人も他の利用者にも緊張感・ストレスを与えるので、特にトイレや入浴時の声掛け等に職員皆が充分留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話を聞きながらご本人の気持ちを汲み取る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状況に合わせて無理強いないで出来る事を探しながら充実した日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望や好きなものなど話を聞きその人らしさを出せる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の出来る事を引き出し一緒に行うことで張り合いを持って頂ける環境作りに努めている。	ホーム内の菜園で収穫した食材を使ってメニューに趣向を凝らし、色彩豊かで季節感が実感できる。音楽による演出もあって楽しい食事のひと時となっている。更に自分の役割が持てるよう米とぎや洗い物、切干大根を保存食として職員と共に作る等出来ることはやって貰うように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状況に合わせて必要ならば工夫をしながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施や必要に応じて歯科衛生士の指導も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状況を把握しながら必要に応じ排泄パターンを知ることによって失敗を減らし定期的な誘導を行い自立支援に繋げている。	昼間はおむつを使用しない事として、利用者夫々の排泄パターンを把握してトイレへの誘導を他の利用者に分からないよう耳元で声掛けして自立支援している。便秘対策は兆候を早めに掴んで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々それぞれの排泄パターンを調べ水分量などの調整など予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時のご本人の気分や状況にて無理強いないでその人にそった支援をしている。	入浴は基本的に隔日で行っている。認知症が進んで「風呂」の意識が薄れてきている利用者には「あちらで身体を綺麗にしましょう」等の言葉でいざなっている。入浴時は転倒と長風呂によるのぼせに特に気を配っている。時にはゆず湯を使ったりして入浴に変化を持たせる等の工夫で入浴が楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせてながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容の理解や主治医との相談にて見直しすることで変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の習慣的な事や個々それぞれの自分の時間を楽しむことも推進しながらその方にとっての楽しみを見いだせる様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天気状況にてご本人の要望に応えられるよう職員配置も考えながら支援している。	職員を増やし「個別対応」の散歩や買い物の支援を行なっている。また毎月行事を企画・実施しており、利用者の生活にメリハリを持たせている。車でのドライブも利用者にとって楽しみの一つで、ゆめ牧場へ弁当持参で出掛けたり花見・夏祭りなど盛り沢山である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事前にお小遣いを預かっているのが本人の希望に応じ一緒に買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れながら必要に応じ音の演出や映像など配慮しながら居心地の良い空間作りに取り組んでいる。	リビングルーム兼食堂の高い天井は自然採光の設計がなされており、穏やかな雰囲気が出されている。利用者同志の相性等把握して、4つのテーブルとソファでみんなが快適に過ごせるよう心配りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置や利用者様間でのトラブルを回避できる様に日々配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のなじみのものを置くことで安心して過ごしていただける環境作りに配慮している。	使い慣れた整理ダンス・寝具や思い出の写真などが持ち込まれ、今迄の生活に近い環境を心掛け、安心した生活が継続できるようにしている。各部屋に設えてある大きめのクローゼットは着替えの衣類などの収納に有用性が高い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人出来る事を引き出し日々の習慣に取り入れていくことでご本人の張り合いにも繋がって行くことで自立した生活が送れる様支援している。		